

C- II -64 術後人工呼吸管理が必要な高齢患者における デクスメデトミジンの使用経験

金沢医科大学病院麻酔科

中村 勝彦, 杉浦 聰一郎, 関 純彦, 土田 英昭

ICUで現在鎮静に使用されるミタゾラムやプロポフォールは、深い鎮静状態にすることができるが、鎮静中の意志の疎通は困難であり、退薬症状や譫妄、呼吸抑制などに注意しなければならない。特に高齢者では、十分な鎮静をすると循環動態が不安定になったり、人工呼吸器からの離脱が難しくなる。また、ミタゾラムなどの鎮静薬の投与を中止すると、退薬症状や譫妄を高頻度に生じる。 α 2アゴニストの1つであるデクスメデトミジン(DEX)が、ICUでの短期間の鎮静薬として使用され始めている。鎮静薬としてのDEXの特徴は、鎮静の質が良いこと、鎮痛作用を有すること、循環系が安定することである。DEXによる鎮静状態は、不安や苦痛のない状態を作り出すと同時に、呼びかけに応じて理学療法などに協力的であることがあげられる。DEXは、投与中止後の譫妄の発生頻度が少ないといわれており、さらに、ミタゾラムなどの退薬症状や譫妄・興奮の治療に有用であるといわれる。呼吸抑制は軽微で、抜管後にも投与

することができる。

今回、手術侵襲が大きいために術後、DEXを用いて呼吸管理をした80歳以上の患者3例を経験した。うち2例は消化器外科の患者で、1例はSMA血栓症に対し腸切除術、血管バイパス術が、もう1例は上行結腸癌に対し右半結腸切除術、胆囊摘出術が施行された。他の1例は整形外科の患者で、第12胸椎圧迫骨折に対し胸椎後側方固定術が施行された。手術終了後、手術室にてDEXを $0.33 \sim 0.4 \mu\text{g/kg/hr}$ の速度で開始し、ICU入室後もそのまま継続投与した。3例すべてにおいて人工呼吸管理中はRamsay scoreで2~4の鎮静が得られ、循環動態、呼吸状態は安定していた。人工呼吸器からの離脱に問題はなく、譫妄などの精神症状も起こらなかった。また、投与中は鎮痛薬の投与を必要としなかった。

DEXは術後人工呼吸管理が必要な高齢患者の鎮静薬として有用である。